

背景

名古屋市の公園数の9割以上を占める「地域に身近な公園(1,447か所)」は、その約6割が開園から40年以上経過し、周辺のまちの変化への対応が必要な公園も見られます。

再生により目指す姿

地域に身近な公園が暮らしの質を高める魅力的なまち

地域に身近な公園において6つの機能を設定し、それらの機能を組み合わせて効果的に発揮させることで「地域に身近な公園が暮らしの質を高める魅力的なまち」を目指します



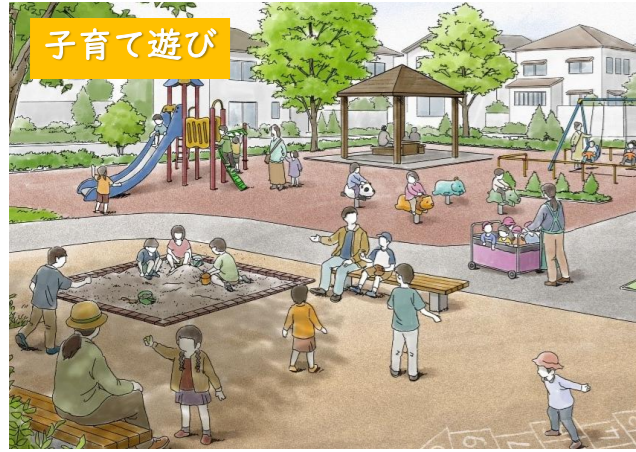
賑い活力

他の地域からも人が集まり公園が賑い、活気あふれる場



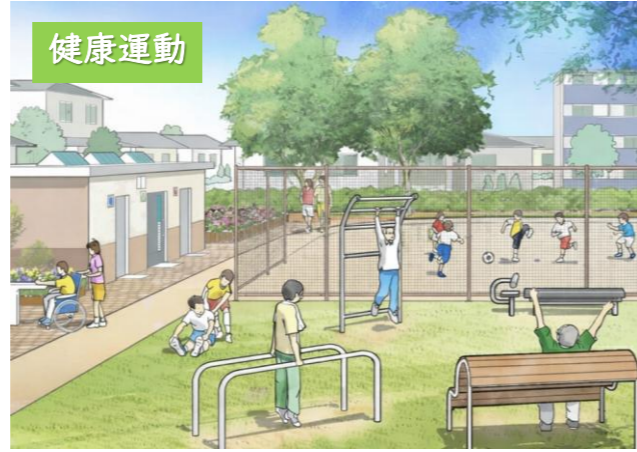
地域憩い

多世代の交流が生まれ、地域の「〇〇したい」が実現できる憩いとくつろぎの場



子育て遊び

幼い子どもが保護者や保育者等に見守られ安心して遊べる場



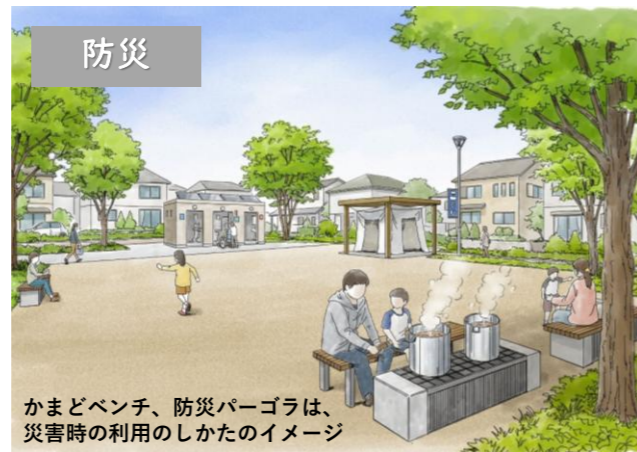
健康運動

健康遊具の利用や、散策・ボール遊びなどの運動ができる健康増進の場



環境共生

緑陰が確保され、生物多様性の向上、雨水浸透機能の確保など環境共生の場



防災

かまどベンチ、防災パーゴラは、災害時の利用のしかたのイメージ

オープンスペース確保や災害対応型施設の設置等により防災上の役割を果たす場

再生の進め方

まちの変化にあわせて公園を地域に求められる姿に変えていく ～画一から個別最適化した公園に再生～

公園のポテンシャルの把握

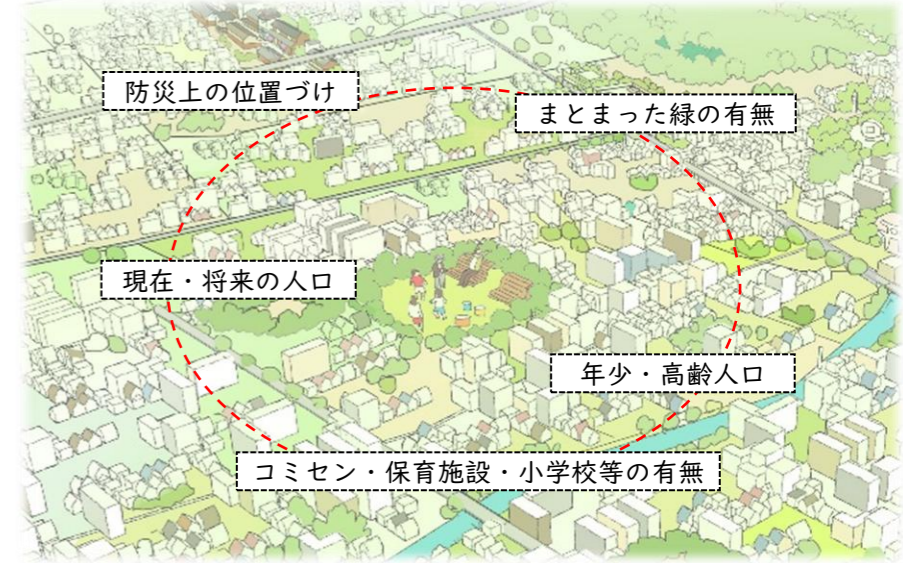
地域に身近な公園の課題

まちの変化への対応

限られた空間の活用

公園全体の老朽化への対応

限られた予算への対応



公園のポテンシャルの把握

公園をまちの変化に対応させるため、客観的な指標を用いて各公園のポテンシャルを把握します

再整備

公園の特色を伸ばす

6つの機能の視点から、重視する機能・簡素化する機能を設定するなど個別最適化した公園となるよう再整備を行います

維持管理

公園を良好な状態に保つ

限られた空間を有効に活用できるように、施設配置の見直しや適切な維持管理などにより公園を良好な状態に保ちます

運営管理

地域や関係者が公園を使いこなす

誰でも自由にもっと使いやすく、もっとやりたいことが実現できる場となるような運営管理に取組みます

地域に身近な公園が暮らしの質を高める

再整備のイメージ



公園の活用イメージ

